

令和5年度 中心拠点病院の事業総括

国立成育医療研究センター アレルギーセンター



アレルギー中心拠点病院としての活動

～国立成育医療研究センター～

- **アレルギー疾患に係る医師に対する研修支援事業**
～A・B・C研修の実施について～
- **アレルギー疾患患者や家族等に対する相談事業**
～医師によるアレルギー電話相談室～
- **アレルギー疾患医療診断等支援事業**
～症例や診療に対するメール相談～

アレルギー疾患に係る医師に対する 研修支援事業

(A研修) 成育アレルギー中心拠点セミナーの開催

- 毎月WEB開催へ（基礎・臨床の隔月）

(B研修) 小児アレルギー診療短期重点型教育研修

- 実地研修参加による、より充実した研修内容を構築

(CD研修) 専門修練研修

- 総合アレルギー診療エキスパート育成、臨床研究論文・学位取得のサポート



国立成育医療研究センター
アレルギーセンター



小児アレルギー診療短期重点型 教育研修プログラム 2023年度 参加者募集中！



小児診療医のための10日間実践研修

研修 内容

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息の診療に加え、
薬物アレルギー、食物蛋白誘発胃腸症などの内容も
盛り込まれた最新の知見に基づくプログラムを
ご用意しています。

先生方のご参加を心よりお待ちしております！

実施期間 2023年6月～2024年3月

応募は随時受け付けております（研修開始8週間前まで）

* 当国立成育医療研究センター
アレルギーセンター公式ホームページ
（医療従事者向け）にて詳細をご確認
の上、ご連絡下さい！



中心拠点病院におけるB研修「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(センター長回診)	(8:30 チーム回診)
9:00	外来見学			外来見学	外来見学
10:00	アトピー教室*	喘息教室* (第4週)		食物アレルギー教室*	乳児教室*
11:00		食物負荷試験見学 または 外来見学 * 負荷試験は午後 にも実施しています。 メンターにご確認下さい	食物負荷試験 (1名担当)		
12:00	外来見学			外来見学	外来見学
13:00					
14:00	皮膚テスト			気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	病棟/レクチャー
15:00		食物負荷 帰宅時診察	食物負荷 帰宅時診察		
16:00	ガイダンス (メンター)	病棟/レクチャー /負荷試験予習	病棟/レクチャー	病棟/レクチャー	ヒアリング (研修 担当)
17:00	回診	輪読会	(チーム回診)	病棟カンファレンス	ジャーナルクラブ
		(チーム回診)			回診

	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	(8:30チーム回診)	(8:30チーム回診)	(センター長回診)	(8:30チーム回診)
9:00				外来見学 初診問診	
10:00		喘息教室* (第4週)			
11:00	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	食物負荷試験 (2名担当)		食物負荷試験 (2名担当)
12:00					
13:00					
14:00	皮膚テスト			気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	食物負荷 帰宅時診察
15:00		食物負荷 帰宅時診察	食物負荷 帰宅時診察		病棟/レクチャー
16:00	病棟/レクチャー	病棟/レクチャー /負荷試験予習	病棟/レクチャー	病棟/レクチャー	ヒアリング (研修 担当)
17:00	回診	輪読会	(チーム回診)	病棟カンファレンス	ジャーナルクラブ
		(チーム回診)			回診

* 教室はコロナ後は対面で実施中

9-17時 研修必須

月・火・木・金
疾患別初診
教室参加後に本診

総合アレルギー科行事

休憩

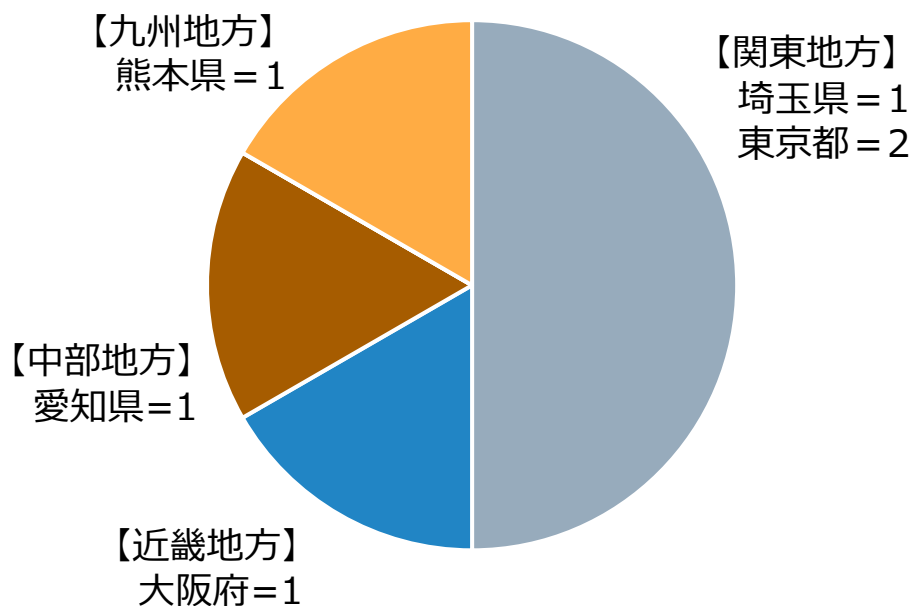


食物負荷試験ユニット (OFCユニット) での研修開始 **レクチャー内容を刷新**
患者さん向けの教育プログラムはすべてオンラインから従来の対面形式になった

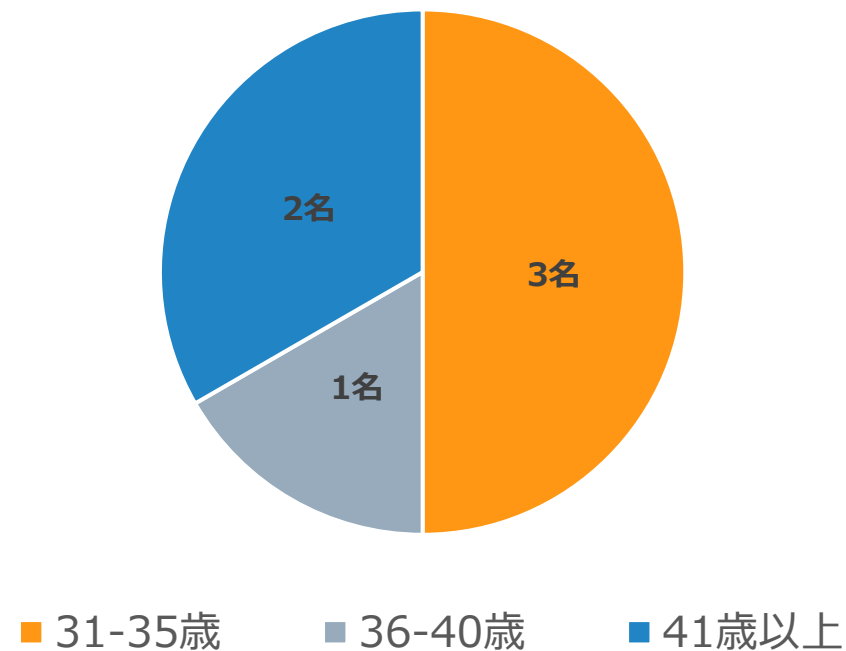


研修参加者の背景

研修参加者 所属施設の所在地域



研修参加者の年齢



＜専門医資格の有無＞
小児科専門医 = 6名 (100%)
アレルギー専門医 = 0名

拠点病院医師に加え一般応募として計6名の医師が研修実施

研修結果の評価（1） 「知識・技能」

食物アレルギー

1. 食物アレルギーの分類、鑑別疾患、診断法について説明できる
2. アレルゲンコンポーネントに基づいた食物アレルギーの診断ができる
3. (IgE依存性食物アレルギーについて) 食物経口負荷試験が必要な患者と保護者へ、目的、リスクを説明し、負荷食品の量、時間間隔を設定して同意を取得することができる
4. 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、指示、処置オーダー、物品、投薬準備を行うことができる。その際のメディカルスタッフの連携について理解している
5. 1日数例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
6. 二重盲検法など特殊な食物経口負荷試験について理解し、実施できる
7. 食物経口負荷試験の結果を参考に、具体的な摂取量や摂取方法、頻度を含めた食事指導を行うことができる
8. 食物抗原の特徴に合わせた食事指導ができる
9. アナフィラキシーの症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる (アドレナリン自己注射薬の処方、使用法の説明)

アトピー性皮膚炎

10. アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
11. アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
12. アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
13. アトピー性皮膚炎のスキンケア法 (石鹸洗浄、外用薬塗布) を、必要なツールを準備して指導できる
14. アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
15. 寛解導入療法・寛解維持療法の概念について説明できる
16. アトピー性皮膚炎の外用薬による治療と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
17. アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤を含めた全身療法の適応とその方法について理解している

予防

18. アレルゲン二重曝露仮説の理論を説明することができる
19. アレルギー疾患発症のリスク因子と予防法について説明できる

喘息

20. 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
21. 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
22. 気管支喘息の悪化因子を挙げ、環境整備について指導できる
23. フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者 (保護者) に説明できる
24. 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者 (保護者) に説明できる
25. 気道過敏性検査を行うことができる
26. 重症度に応じた喘息長期管理薬を選択できる
27. 気管支喘息治療における生物学的製剤の適応と使用方法について理解している
28. 患児の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患児 (保護者) に指導ができる
29. 喘息急性増悪時の対応を患者 (保護者) に指導できる
30. 舌下免疫療法について、服用法、効果、副作用の説明ができる

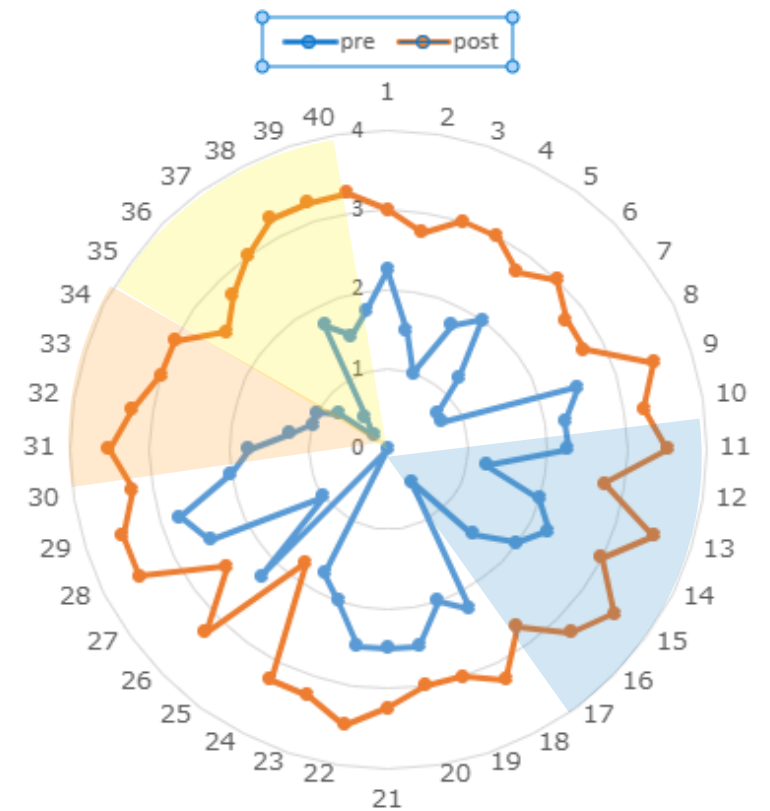
食物蛋白誘発胃腸症

31. 食物蛋白誘発胃腸症の分類を説明できる
32. 食物蛋白誘発胃腸症の診断法や鑑別疾患を説明できる
33. 食物蛋白誘発胃腸症の検査 (経口負荷試験を含む) について説明できる
34. 食物蛋白誘発胃腸症の管理法について説明できる

薬物など

35. 薬物アレルギーの定義・分類・臨床症状について説明できる
36. 薬物アレルギー評価の流れについて説明できる
37. 薬物アレルギー (の疑い) をもつ患者に対して、今後の方針について適切に説明できる
38. 皮膚テストの分類、適応を理解している
39. 皮膚プリックテスト、皮内テスト実施時の注意点を挙げるができる
40. 皮膚プリックテスト、皮内テストの手技を理解し、実施できる

知識・技能に関する40の評価項目



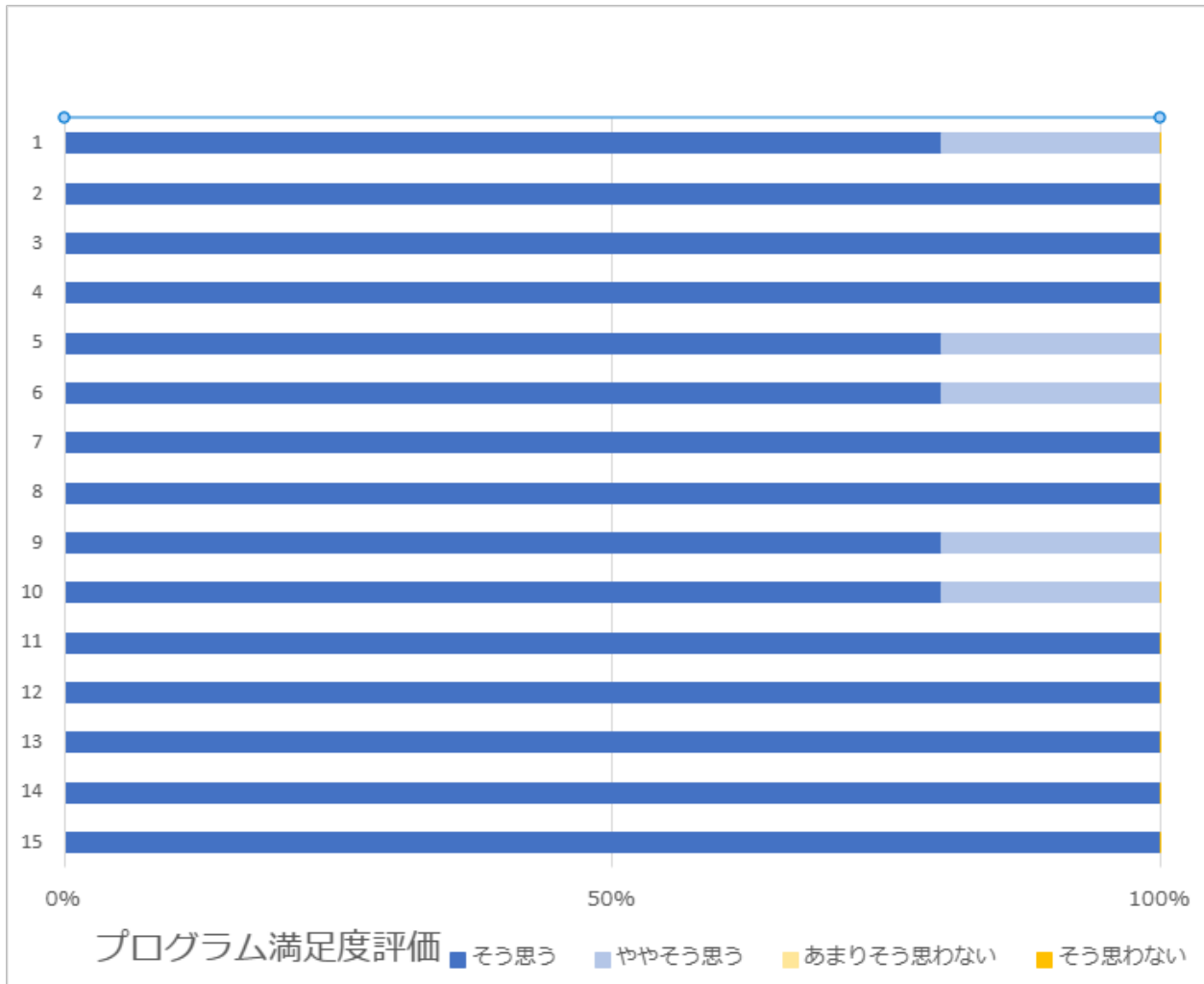
研修評価方法

Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応 (満足度)
- ・学習 (知識・技能)
- ・行動 (実際の行動変容) について
参加者自身が評価 (研修前・終了時)



研修結果の評価 (2) 「プログラム満足度」



- 1 到達目標の項目数は、研修日数に対して適切であった
- 2 到達目標の項目は、自分のニーズに対して適切であった
- 3 研修各日のスケジュールの量（忙しさ・暇さ）はおしなべて平均化すると適切であった
- 4 患者向けの教室見学は有用であった
- 5 看護指導（患者向け教室での看護指導を含む）の見学は有用であった
- 6 病棟における実習（スキンケアや食物蛋白誘発胃腸症の負荷試験など）の内容は十分であった
- 7 外来における実習（食物経口負荷試験や呼吸機能検査など）の内容は十分であった
- 8 本教育プログラム用に作成された教材の内容・量は適切であった
- 9 ワークシートの使用は有用であった
- 10 レクチャー中の模擬症例検討は有用であった
- 11 到達目標の項目毎に担当指導医がつく制度は有用であった
- 12 メンターの機能は有用であった
- 13 ヒアリングの機能は有用であった
- 14 研修参加中の医療スタッフの態度は友好的で質問しやすい雰囲気であった
- 15 参加に関する事務サポートは適切であった

研修結果の評価（2）「プログラム満足度」

【その他いただいたご感想】

- ・ 外来、病棟のみならず患者教室やレクチャーを通して、**実際の診療面と知識面の双方を学ぶことができ大変有意義**でした。
- ・ 通常の診療や研究などで大変お忙しい中、このような**教育や啓発**にもお力を入れてらっしゃることに感銘を受けました。
- ・ 実際の診療を見学させて頂き、疾患だけでなく**患者さん自身をしっかりと診ることの重要性**を改めて感じさせられる機会となりました。
- ・ そのときの**診療、検査のスケジュールや希望に合わせて適宜予定を変更頂き**、処置や検査など見学することもでき勉強になりました。
- ・ 系統だてられたレクチャーでアレルギー診療全般にわたる**行き届いた丁寧な指導**をしてくださり、**最新のトピックス**も、時間を割いて惜しみなく情報共有してくださって大変勉強になりました。
- ・ 輪読会やジャーナルクラブも毎週されており、**最新論文に触れ知識を共有**されており刺激を受けました。

その他の研修事業（A研修①）

令和5年度 成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー

国立成育医療研究センター 第28回アレルギー臨床懇話会のご案内

今回のアレルギー臨床懇話会では、特別講演として順天堂大学医学部小児科 稲毛 英介 先生にご登壇いただき、遺伝性血管性浮腫（HAE）に関するご解説を頂きます。HAEは皮膚や喉頭、消化管粘膜等に限局性発作性に深部浮腫を繰り返す希少疾患ですが、小児科医における疾患認識は十分でなく、診断までに長く時間を要し日常生活やQOLに重大な影響を及ぼすとされています。今回小児HAEの診療経験が豊富な稲毛先生に病態や診療のポイントや、最近の進歩についてご解説頂きます。大変貴重な聴講の機会ですので、ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

対象 子どものアレルギーに関心のある医療従事者

日時 2023年6月29日（木） 19:00 ～ 20:30

会場 ハイブリッド開催（Zoomウェビナーでのライブ配信）
現地会場：国立成育医療研究センター研究所2階 セミナールーム

開会の辞

吉川 弘二 先生

一般演題 19:00～19:30 座長：笹本 明義 先生・津田 正彦 先生

『食物アレルギーと薬剤アレルギーのdelabelingを行った遺伝性血管性浮腫の思春期例』
アレルギーセンター総合アレルギー科 梅沢 洸太郎 先生

特別講演 19:30～20:30 座長：大矢 幸弘 先生

『子どもの遺伝性血管性浮腫—最近の進歩—』
順天堂大学医学部 小児科 稲毛 英介 先生

閉会の辞

小林 俊夫 先生

※取得単位：日本小児科学会専門医 新更新単位iii（小児科領域講習）1単位
日本アレルギー学会専門医制度 2単位
日本医師会生涯教育制度 1.5単位（CC: 24、45）

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

WEB参加：先着500名様までとさせていただきます。

<代表世話人> 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 大矢幸弘
<事務局> 福家 石川 早瀬（国立成育医療研究センターアレルギーセンター）
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

主催：国立成育医療研究センターアレルギー臨床懇話会

第28回成育アレルギー臨床懇話会

令和5年6月29日（木）Zoomウェビナーによるライブ配信

一般演題：「小麦アレルギー、薬剤アレルギーと考えられていた遺伝性血管性浮腫3型の思春期例」
国立成育医療研究センター アレルギーセンター 梅沢洸太郎

特別講演：「子どもの遺伝性血管性浮腫-最近の進歩-」
順天堂大学医学部附属順天堂医院小児科 稲毛英介先生

262名の方にご参加いただきました

その他の研修事業（A研修②）

令和5年度

第2回成育アレルギーメディカルスタッフセミナーのご案内

◆東京都アレルギー疾患治療専門研修◆

東京都では都内のアレルギー疾患医療の標準的治療、患者の日常生活や疾患管理の支援等に関する研修を実施しています。

今回は、多くの御講演や著書等で著名な、別府大学食物栄養科学部食物栄養学科教授 高松伸枝先生をお招きし、食物アレルギーの栄養指導、管理栄養士の関わりなどについて御講演をいただく予定です。ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

◆対象：アレルギーに関心のある医療従事者

◆日時：2023年10月26日（木） 19:00 ～ 20:30

Zoomウェビナーでのライブ配信

◆プログラム

①『一般演題』：19:00～19:30

座長：福家 辰樹 先生

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 総合アレルギー科診療部長

1. 「蒸しパンやパンケーキ等の調理品を用いた食物経口負荷試験の有用性」
国立成育医療研究センターアレルギーセンター 松本 恭明 先生
2. 「当センターでの医療的ケア児に合併する食物アレルギー評価について」
国立成育医療研究センターアレルギーセンター 鈴木 大地 先生

②『特別講演』：19:30～20:30

座長：大矢 幸弘 先生

国立成育医療研究センターアレルギーセンター センター長

「食物アレルギー診療における管理栄養士の関わり
と食事指導のコツ」

特別講師：高松 伸枝 先生

（別府大学食物栄養科学部 食物栄養学科 教授）

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

問合せ先：

<事務局> 福家辰樹 石川史 早瀬和子

（国立成育医療研究センターアレルギーセンター）

〒157-8535東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話：03-3416-0611E-mail: allergy@ncchd.go.jp

第2回成育アレルギー メディカルスタッフセミナー

令和5年10月26日（木）Zoomウェビナーによるライブ配信

※東京都アレルギー疾患医療拠点病院として開催

一般演題：

- ①「蒸しパンやパンケーキ等の調理品を用いた食物経口負荷試験の有用性」
国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科 松本 恭明
- ②「当センターでの医療的ケア児に合併する食物アレルギー評価について」
国立成育医療研究センターアレルギーセンター総合アレルギー科 鈴木 大地

特別講演：

「食物アレルギー診療における管理栄養士の関わりと
食事指導のコツ」

別府大学食物栄養科学部 食物栄養学科 高松 伸枝先生

420名の方にご参加いただきました

その他の研修事業（A研修③）

成育アレルギー中心拠点病院 オンラインセミナー

月1回開催

臨床分野と基礎分野が隔月で担当

- **臨床**（アレルギー臨床勉強会）
担当：国立成育医療研究センター アレルギーセンター
- **基礎**（免疫アレルギーTerakoya勉強会）
担当：国立成育医療研究センター 免疫アレルギー研究部

	参加者数
4月27日（木）アレルギー臨床勉強会 「アトピー性皮膚炎のホットトピックス」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 福家辰樹/豊國賢治	315人
5月25日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「抗原はどこから感作されるのか？」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明	366人
7月27日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「好酸球性消化管疾患 何がおきているのか？ 病態解明の最前線」 国立成育医療研究センター研究所 好酸球性消化管疾患研究室 野村伊知郎	317人
8月17日（木）アレルギー臨床勉強会 「日常診療での応用行動分析/喘息と間違えられやすい誘発性喉頭閉塞症」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 大矢幸弘/齋藤麻耶子	355人
9月14日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「マスト細胞とIgE研究の歴史」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 齋藤博久	311人
11月16日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「アレルギー患者が増加した理由と今後の展望」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明	480人
12月14日（木）アレルギー臨床勉強会 「薬剤アレルギー・デラベリングのやり方」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 平井聖子/石川史	411人
1月25日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「新生児-乳児食物蛋白誘発胃腸症 何がおきているのか？ 病態解明の最前線」 国立成育医療研究センター研究所 好酸球性消化管疾患研究室 野村伊知郎	
2月15日（木）アレルギー臨床勉強会 「即時型食物アレルギーと消化管アレルギーの日常管理」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 山本貴和子/佐藤未織	
3月14日（木）免疫アレルギーTerakoya勉強会 「新型コロナウイルス感染症の最近の話題（仮題）」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 松本健治	

2023年度
医療従事者向け
無料セミナー

セミナー・シンポジウムのご案内
成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー



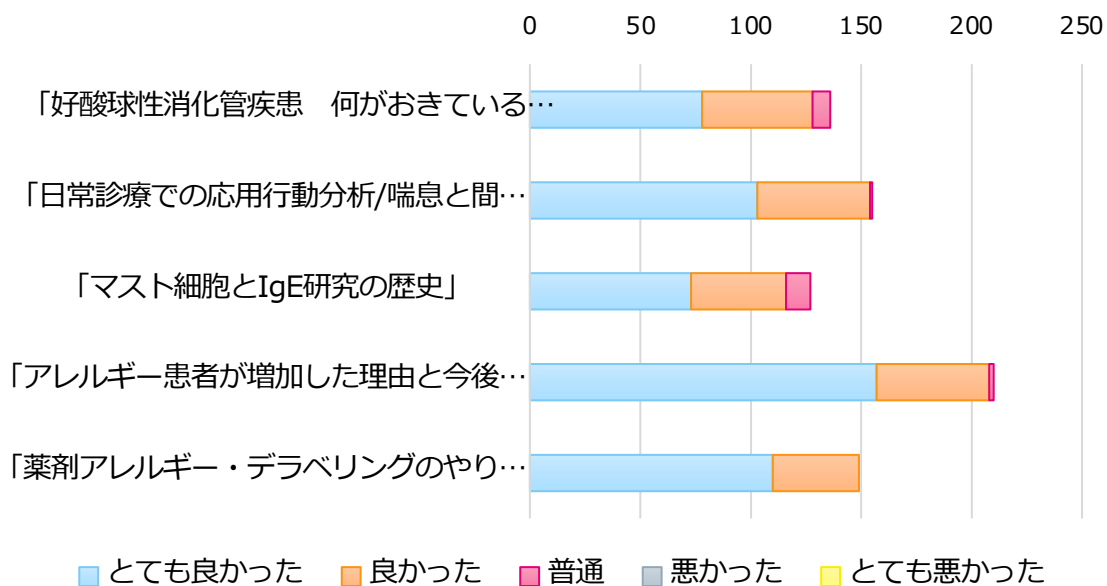
その他の研修事業 (A研修②)

成育アレルギー中心拠点病院 オンラインセミナー

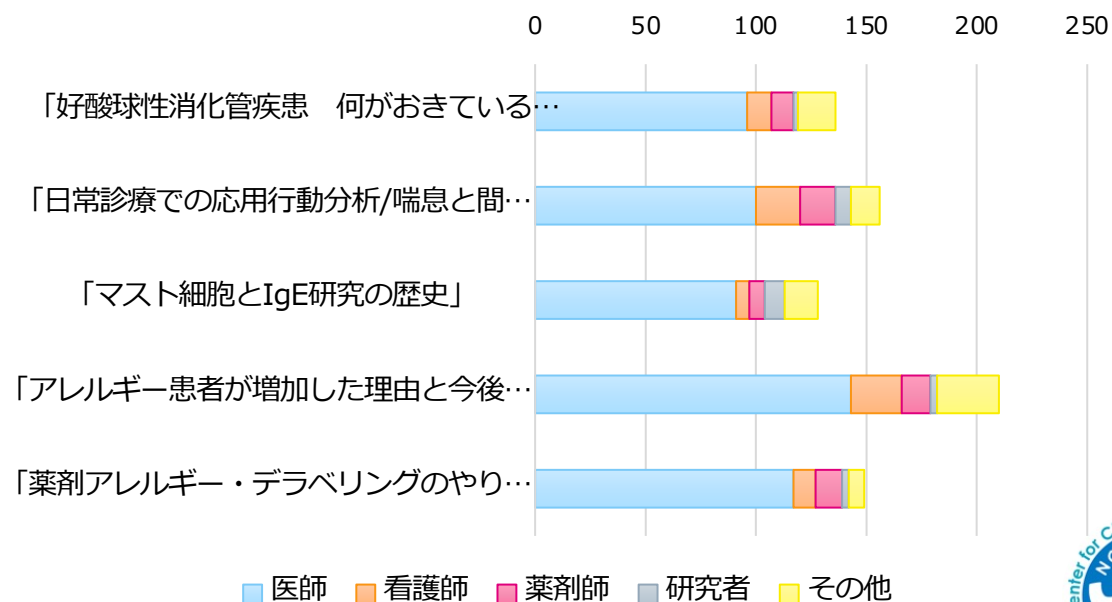
アンケート結果 (7月~12月)



アンケート結果



アンケート回答者の職業



オンラインセミナーの評価

【その他いただいたご感想】

- **最先端の情報が得られますので、毎回楽しみにしております（医師）**
- **毎回わかりやすく実践的な内容で、とても勉強になっております（医師）。**
- **XX療法の効果を説得力をもって患者さんに伝えられそうだと感じました。ありがとうございました（看護師）。**
- **最新の知見だけでなく、研究の深みや楽しみを学びました（その他職種）。**
- **わかりやすい講演でした。医療関係者がみな疑問に思っていることに対し少し光がみえた感じですか（医師）。**
- **初めて参加させていただきました。こんな素晴らしい講義を遠方でも拝聴できてとても感謝です（医師）。**
- **知識の整理ができ、患者さんからの質問に自信を持って答えられそうです（医師）。**
- **基本的な事を踏まえたうえで診療の実際についても教えていただけました（医師）。**
- **服薬指導時に…（中略）…、今回のセミナー内容を参考に情報提供できると思ったため（薬剤師）。**
- **子供の世話に忙しい時間の開催なので/当直があるので、オンデマンドがあるとありがたい/アーカイブを残してほしいです（医師）。**

マタニティオンライン教室



「生まれてくるお子さんのための
アレルギー予防オンライン教室」

インターネット情報に振り回されていませんか!?

アレルギー疾患をもつお子さんが増えてきています。
妊娠中から正しいアレルギーの知識を身につけることが大切です。
最近の研究情報からアレルギーに関する正しい知識を学び、お子さんのアレルギー疾患
発症予防や早期発見に役立てるためのオンライン教室を開催しています。

開催日時 毎月第3金曜日 14時～15時

講師 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 医師

開催方法 Microsoft TeamsによるWeb開催。

お申込みいただいた方へURLのご案内をさせていただきます。

参加対象者 ・妊婦さんとそのパートナーの方
・出産やお子さんに関わる職種の方（オブザーバーとしてご参加ください）

定員に達した場合

- ・当センターでご出産の方を優先させていただきますことご了承下さい。
- ・ご希望の回にご参加頂けない場合には、事務局より他の回の日程をご案内させていただきます。

申込方法 下記QRコードよりアクセスし、申込フォームにてお申込みをお願いいたします。



- ◆URLをお知らせさせていただいた方以外にご参加いただけませんのでご容赦ください。
- ◆参加費は無料です。
- ◆当院HP「アレルギーセンター」ページ内「お知らせ」からもアクセスいただけます。

※ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。

<問合せ先>

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
アレルギーセンター 研究事務局
TEL:03-3416-0611
E-mail:allergy_research@nochd.go.jp

みなさまのご参加を
お待ちしております!



妊娠中から正しいアレルギーに関する正しい知識を学び、
お子さんのアレルギー疾患発症予防や早期発見に役立てる
ためのオンライン教室を開催しています。

アレルギーについて よくある質問 医療機関情報 アレルギーの本棚 災害時の対応 日本の取り組み 研修・講習会・eラーニング 都道府県のサイト

研修・講習会・eラーニング
行政・学校関係者の方向け

<p>食物アレルギーセミナー ～共に創ろう 笑顔あふれる 食の未来～（2022年度）</p> <p>栄養士・食従事者の方向けのセミナー で、3/5（日）13:00から予定されていま す。オンライン、会場参加とも、申込は 2/24（金）締切となっています。</p> <p style="text-align: center;">くわしく見る</p>	<p>アレルギー 相談員養成研修会</p> <p>アレルギー疾患に関して患者やその家族 と接する機会が多いアレルギー専門医以 外の医師、看護師、保健師、薬剤師、栄 養士などを対象としています。</p> <p style="text-align: center;">くわしく見る</p>	<p>食物アレルギーセミナー “安全で安心な 子どもの笑顔 を守る 食の未来”（2022年 度）</p> <p>保育者の方向けのセミナーで、11/27 （日）12:30から予定されています。 Web参加、会場参加とも、申込は11/8 （火）締切となっています。</p> <p style="text-align: center;">くわしく見る</p>
<p>生まれてくるお子さん のためのアレルギー予防 オンライン教室</p> <p>妊娠中から正しいアレルギーに関する知 識を身につけていただくため、定期的 に開催されています。主に妊婦さんとそ のパートナーの方が対象となっています。</p> <p style="text-align: center;">くわしく見る</p>	<p>文部科学省補助事業 アレルギー講習会 （学校における普及啓発講 習会）</p> <p>学校現場においてのアレルギー対応の研 究を進めるための講習会です。</p> <p style="text-align: center;">くわしく見る</p>	<p>食物アレルギーによって 起こる症状と治療について</p> <p>食物アレルギーの症状とその治療法を学 ぶ研修用スライドです。アナフィラキシ ンに対処するための動画も掲載されてい ます。</p> <p style="text-align: center;">ダウンロードする</p>



電話相談事業 2023年の実績

期間：2023年1月1日～12月31日の12か月間

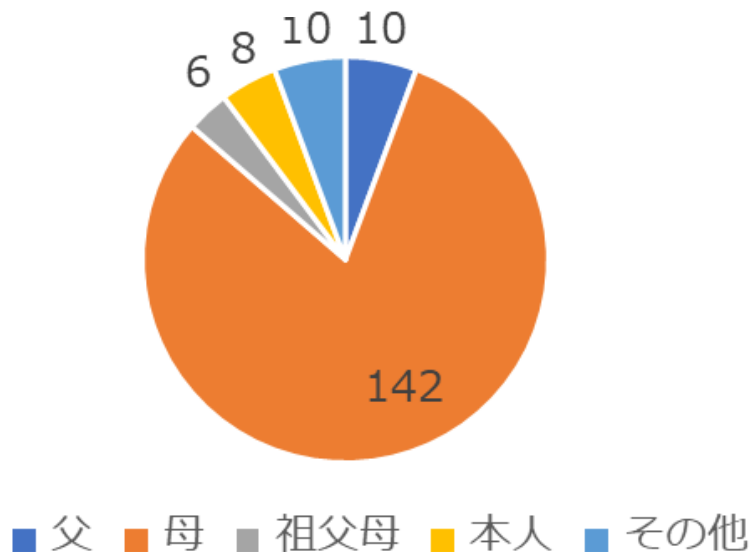
相談件数：176件（前年160件）



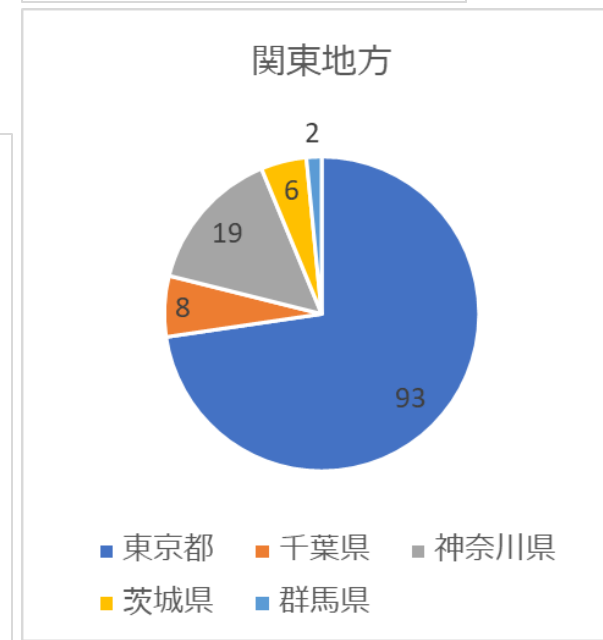
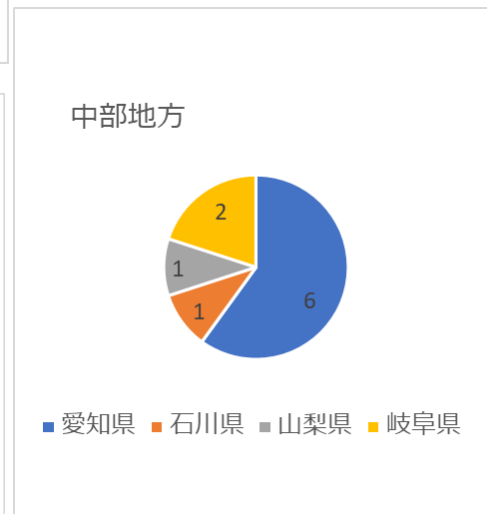
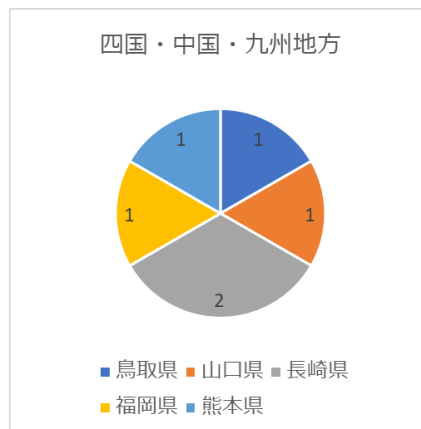
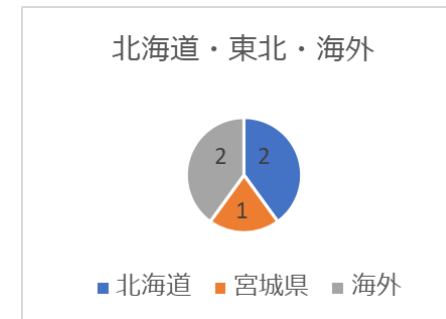
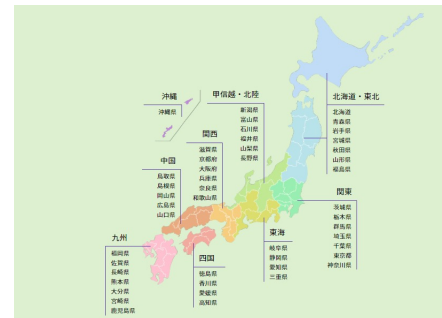
【概要】

- 患者・家族からの電話相談事業
- 医師による、週2回、1回1時間の電話相談
- 相談時間は1回につき15分以内とする

相談者の背景



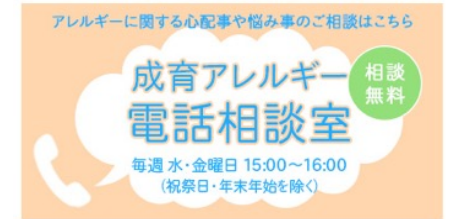
21都道府県と海外から相談あり



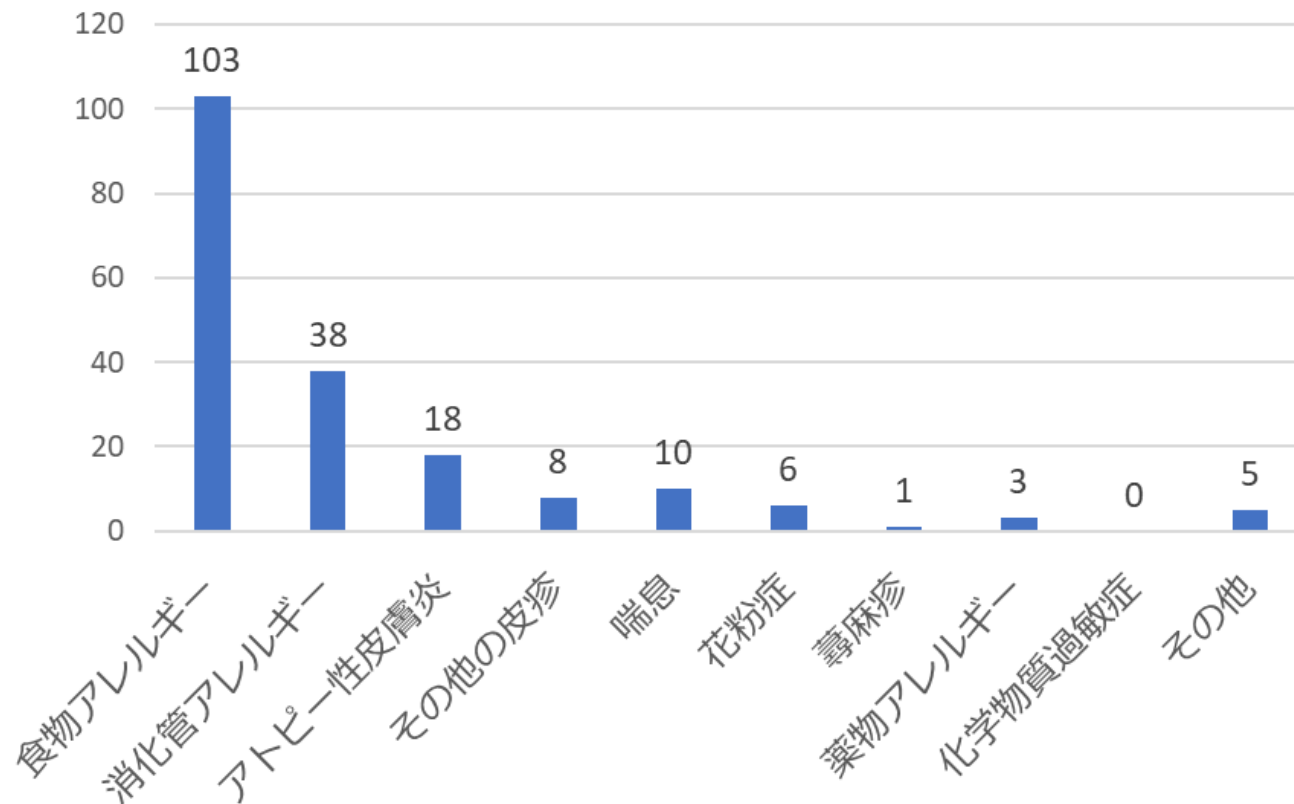
電話相談事業 2023年の実績

期間：2023年1月1日～12月31日の12か月間

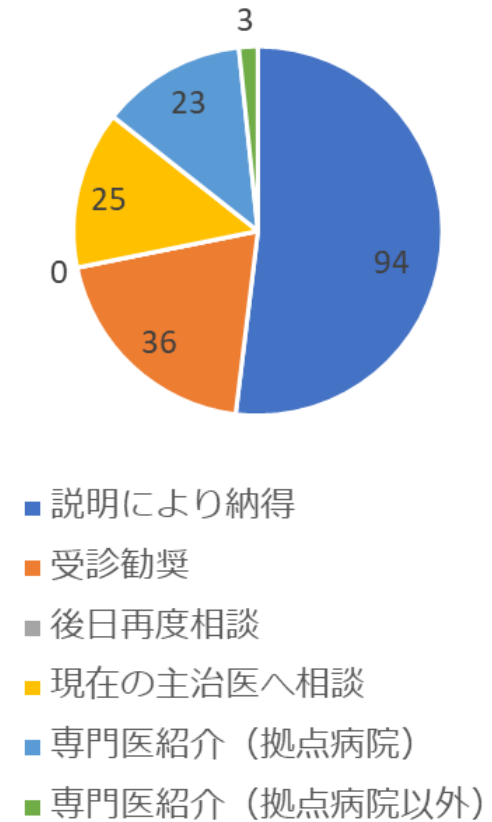
相談件数：176件（前年160件）



相談疾患



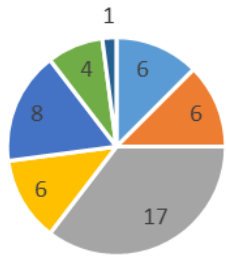
相談の結果



成育医療研究センター 短期研修参加者アンケート

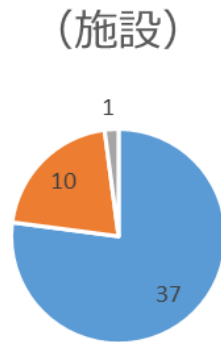
対象：2013年～2023年までにご参加頂いた
計**131名**の先生方のうち、オンラインで
アンケートを送付できた**108名**
結果：**48名 (44.4%)**から回答を得た。

回答者の現在の勤務先（地域）



- 北海道・東北地方
- 中部地方
- 関東地方
- 関西地方
- 中国・四国地方
- 九州・沖縄地方
- 海外

回答者の現在の勤務先（施設）

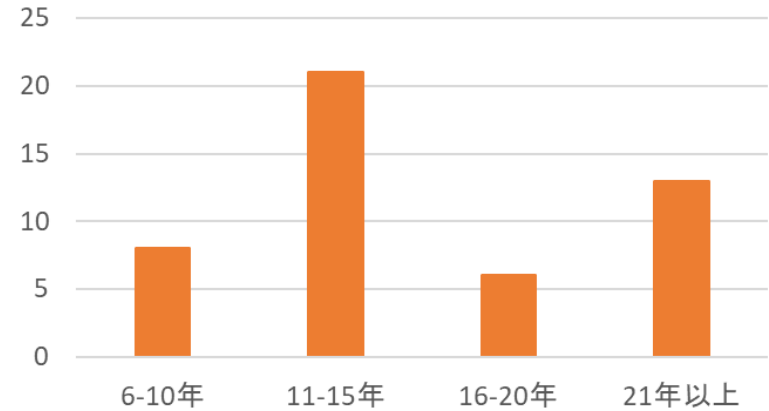


- 病院
- クリニック
- その他

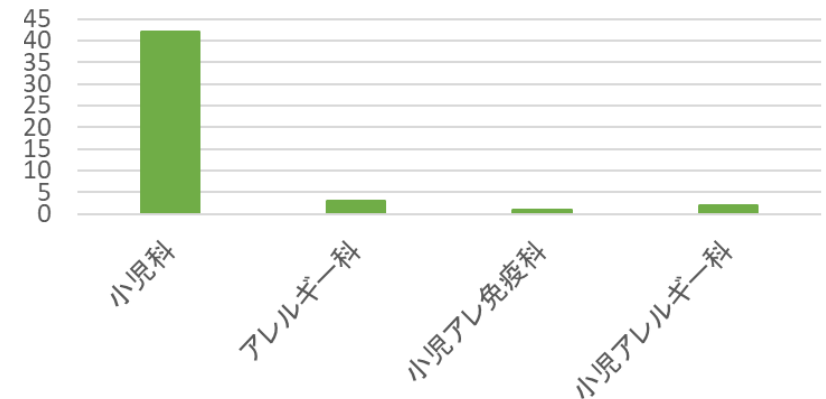
39.6% (19名)が都道府県拠点病院に所属

男性29名、女性19名 (39.6%)

回答者の現在の卒後年数

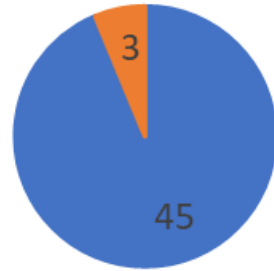


回答者の現在の診療科



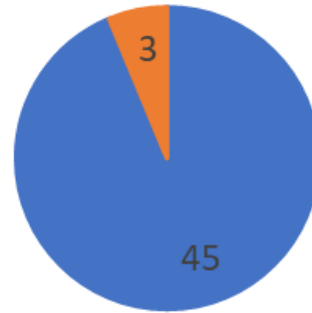
回答者の現在の診療実態

現在、アレルギー外来を担当していますか？



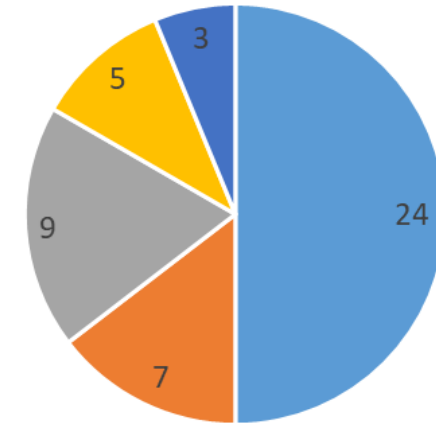
■ はい ■ いいえ

現在、食物経口負荷試験を実施していますか？



■ はい ■ いいえ

負荷試験の実施件数 (1週間)



■ 1-2件 ■ 3-4件 ■ 5-9件
■ 10件以上 ■ 無回答

18名の回答者が、本研修後に日本アレルギー学会認定アレルギー専門医を取得

自由意見

研修に参加し、現在も役に立っていること

- ✓ アトピー性皮膚炎の治療、患者指導(13)
- ✓ 食物経口負荷試験(10)
- ✓ 食物経口負荷試験後の食事指導・経口免疫療法(5)
- ✓ 皮膚プリックテスト(7)
- ✓ 吸入指導(1)
- ✓ (その他)
- ✓ 患者指導の方法、アレルゲン二重曝露仮説の概念、
- ✓ 幅広い知識、医療連携

困っていること・ご要望

- ✓ 成人期医療への移行
- ✓ 新規承認薬の使用方法、知識のアップデート
- ✓ 困ったときに拠点病院に相談窓口が欲しい
- ✓ (研修当時にはなかった) 薬物アレルギー、食物蛋白誘発胃腸症に関するレクチャーがあると良かった
- ✓ パッチテストを学びたかった

後輩や同僚への推薦度

まったく推薦しない(1点)

4.92点

強く推薦する(5点)

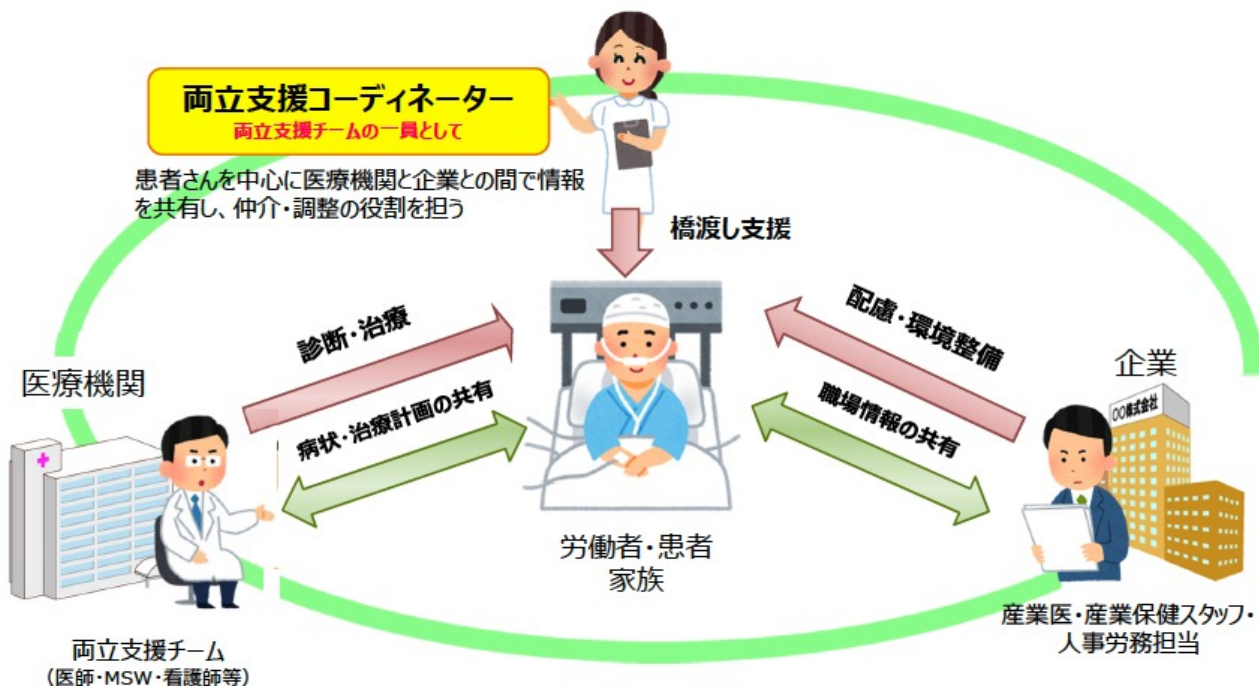
短期研修参加者の研修終了後フォローアップ ～研修後メール相談～

- 短期研修参加者から研修参加後も様々な相談をメールで受付
→概ね1日以内にメールで回答
- 2021～2023年度で、**計27件**の相談あり
- 研修終了～相談までの期間：中央値7ヶ月（0～25ヶ月）
7件（26%）は研修参加後1年以上経ってからの相談
- 相談の一例
 - ・食物アレルギーの管理
 - ・消化管アレルギーの管理
 - ・薬剤負荷試験の方法
 - ・経口負荷試験の実施方法
 - ・好酸球性消化管疾患の診断・管理
 - ・アトピー性皮膚炎の外用薬の使用法 など

研修終了後も、実際の臨床での困りごとを
長期的にフォローアップしている

(追) 免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業

治療と仕事の両立支援体制の確立



【2023年8月～2024年1月の相談実績】 介入件数26件（重複あり）

- 経済的支援（医療費助成等の案内含む）15件
- 社会復帰支援（学校との連携・就労支援等）2件
※就労継続支援は内1件
- 心理社会的支援（本人の精神的不安や母の育児支援等）4件
- 退院支援（退院後のスキンケア指導等）1件
- 受診受療支援（他院受療への連携等）3件
- 家族への支援（家族の宿泊先や精神的支援）4件

MSWは現在9名体制（全員常勤職員）
両立支援コーディネーター基礎研修 2名
新たに講習受講



まとめ

＜医師に対する研修支援事業＞

- ✓ 短期研修（B研修）では診療内容のニーズの変化に伴い、新たに研修目標を設定し実施している。新しい達成目標を多くの参加者が達成することができた。
- ✓ オンラインセミナーの参加者はコロナ禍後も継続して増加しており、全国の医療従事者に視聴頂けるよう引き続き継続していく。

＜アレルギー疾患患者や家族等に対する相談事業＞

- ✓ 全国から相談が寄せられており、特に食物アレルギー、食物蛋白誘発胃腸症に関する相談が多い。